

分科会詳細(7/18 am企画).....

第1分科会「原点を探して」～私が白衣を脱いだ理由(わけ)～

話題提供者	吉田 直美 氏	ささえ愛よろずクリニック(新潟県新潟市)
	渡辺 乾 氏	訪問看護ステーションKAZOC(東京都練馬区)
	出口 珠紀 氏	(社福)明日葉(大阪府守口市)
コーディネーター	田中 清 氏	(社福)あけぼの福社会(大阪府摂津市)

地域の社会資源が少ないと言われて久しい中で、自らが収容中心の医療機関を脱して、アウトリーチを行える社会資源となること。そして地域で患者を支えるという原点を見失い続けた精神科医療に疑問を抱き、良質かつ適切な医療と、医療を受ける者の利益の保護という原点探しの旅を始めた。その第一歩が「白衣を脱ぐこと」だった。それぞれの取り組みから、あるべき生活と支援の在り方を探してみたい。

第2分科会「支援のカギは当事者の生き様にあり!」～原点をともに考えよう～

話題提供者	小島 康 氏	(NPO)にいがた温もりの会 理事(新潟県新潟市)
	渡辺 浩一 氏	渡浩率いる生き様発表会(新潟県新潟市)
	ピアサポーター	(調整中)
コーディネーター	志賀あずさ 氏	(社福)新潟しなの福社会 いらっと(新潟県新潟市)

これまで支援者は本当に求められるものに本当に応えてきたでしょうか。制度やサービスに当事者を当てはめていなかったでしょうか。私たちは何を追いつけていくべきなのか、忘れがちだったものを今一度思い起こしていきませんか。それぞれの立場で夢を切り拓いている当事者の生き様から、原点を探っていきたいと思います。

第3分科会「しごと今昔物語」～作業所の今～

話題提供者	近藤 淳 氏	(NPO) このは(東京都豊島区)
	杉本 みどり 氏	(社福) そよ風(大阪府大阪市)
	宇治 彩子 氏	(社福) 新潟しなの福社会 あどばんす(新潟県新潟市)
コーディネーター	内山 澄子 氏	(社福) のうえい舎(千葉県習志野市)

1981年に東京都で精神障害者共同作業所補助金制度が始まり、その後家族会中心の作業所が全国に広がってきました。障害者総合支援法が施行された今、作業所は地域活動支援センターⅢ型はじめ就労継続支援B型等に多様化しています。分科会の前半は東京、大阪そして新潟からの話題提供、後半は会場を交えたセッション。温故知新、私たちのめざすものは『何か』をともに語り合いませんか?

第4分科会「精神障害者地域生活支援センターの今」

話題提供者	横手 美幸 氏	北区障害者地域活動支援室 支援センターきらきら(東京都北区)
	金子 百合子 氏	(社福)しらとり会 地域生活支援センターまほろば(広島県東広島市)
	山口 和久 氏	(社福)上越つくしの里医療福祉協会 地域生活支援センターこまくさ(新潟県糸魚川市)
コーディネーター	東 貴宏 氏	(NPO) 狛江さつき会 地域生活支援センターリト(東京都狛江市)

1991年に多くの期待を背負い誕生した地域生活支援センター。自立支援法の下、地域活動支援センターⅠ型への移行と、更には計画相談や地域移行支援などの給付相談の実施等、法制度の変化により、その役割や機能は大きく変わってきている。今「支援センター」が地域や時代のニーズにどのように応え、どこへ向かおうとしているのか「原点を見据え、そして更なる未来への創造」ができる場としたい。

第5分科会「住まうということを求めて」

話題提供者	今野 真理子 氏	(NPO)みどり会 みどり工房若林(宮城県仙台市)
	渡辺 邦弘 氏	(NPO)いずみ会 グループホームいずみ寮(福島県福島市)
	村上 大作 氏	糸島福祉プロジェクト(福岡県糸島市)
コーディネーター	森田 哲史 氏	(社団)熊本県精神障害者福祉会連合会 熊本きぼう生活支援センター(熊本県熊本市)

生命(いきる)の基盤である「住まい」。精神障害者の住まう場所の可能性は無限であるが、現在の選択肢は限られた状況にある。果たして「住まい」とは何か? 単に建物や部屋があれば良いのか、それは地域をも指すのであろうか。人は何を求めて「住まう」のか。様々なフィールドで居住支援を展開してきた3名の話題提供を受け、今改めて「住まう」の原点について参加者とともに考える。